大阪市立大学医学部附属病院

市大病院情報誌 そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

2014年9月
第22号

Contents

▷ 心血管疾患集中治療部がリニューアルオープンしました。
▷ マーブルフェスタ 2014 が開催されました。
▷ あべの天王寺・サマーキャンパスで親子プチ健診が開催されました。
▷ 当院の褥瘡（床ずれ）対策について
▷ 診療科から
・整形外科
・脳神経外科
・老年科・神経内科

診療科紹介
核医学科

連載記事
医療安全だより

News リニューアルオープンした心血管疾患集中治療部

(Cardiovascular Care Unit : CCU)

2014年4月より当院のCCUは、4床から6床に増築し急性心筋梗塞、不安定狭心症などの虚血性心疾患のみならず、あらゆる重症の心血管疾患患者様（心不全、不整脈、心筋炎、大動脈解離、肺塞栓症など）を24時間受け入れ、大阪市民の皆様に開放された集中治療を行う部門として生まれ変わりました。

医師、看護師、その他のコメディカルが協力し、循環器専門医が救急部、心臓血管外科とも緊密に連携しながら重症患者様に高度な急性期治療を行うことが可能です。内科的な薬物治療のみならず、2014年4月より最新鋭の装置を導入した血管造影室、手術室にて緊急のカテーテル治療（冠動脈形成術、カテーテル心筋焼灼術など）を、外科的な治療が必要な症例には、緊急の手術（冠動脈バイパス術、僧帽弁形成術、人工弁置換術、人工血管置換術、動脈血栓除去術など）を24時間体制で行っています。

スタッフは循環器専門医、不整脈専門医、心臓インターベンション専門医、超音波専門医、心不全や弁膜症の専門医がそろっており、それぞれの患者様に最適な治療の提供を目指して毎日症例カンファレンスを行い、高度先端医療を患者様に提供しています。

痛みが続く脊骨の骨折に骨セメントを入れる新しい手術

骨粗鬆症性椎体骨折

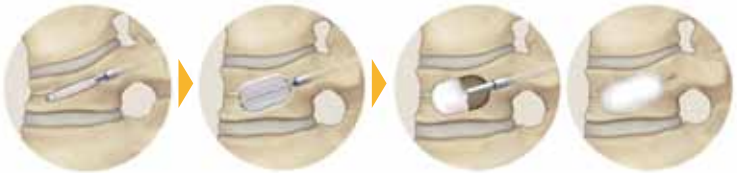
骨粗鬆症とは、骨が弱くなって骨折しやすくなる状態といいます。背骨（椎体）は骨折が生じやすく、骨折すると背中や腰に激痛が生じます。一般的には3～4週ほどで症状が緩和され、骨がくっついて背中が丸くなって治ります。骨がくっつかない状態が続くと、痛みのために寝返りや座ることが出来なくなったり、運動麻痺を生じる場合があります。

【新しい治療法（椎体形成術：Balloon kyphoplasty BKP）】

一般的な治療は、コルセットを使用して一定期間安静にすることです。しかし、2カ月以上経過しても骨がくっつかずに激しい痛みが残った場合には椎体形成術（BKP）が有効な場合があります。椎体形成術（BKP）は、米国で開発された治療法で、世界で80万件以上行われており、日本でも安全性と有効性が確認され2010年に厚生労働省の承認を得ました。手術は全身麻酔でうつ伏せになり、特殊な針とバルーンを用いて骨セメントを骨折部に充填する方法です。傷跡は小さく（1cm程度、2か所）、術翌日より歩くことが可能です。この治療は専門のトレーニングを受けた医師のみが行うことができる手術ですが、当科には4名の専門医師が施行可能です。ぜひ、ご相談下さい。

整形外科　脊椎グループ
豊田宏光 中村博亮

椎体形成術(Balloon kyphoplasty: BKP)



①椎体内に特殊な針を挿入します。
②専用のバルーンを挿入して、つぶれた椎体を復元させます。
③バルーンで作製した空間内に骨セメントを充填して手術終了です。

▲手術前の CT 画像
骨がくっついていないため椎体内部にガス像が出現しています（矢印）。この状態では、椎体は安定化されておらず、痛みが残ります。

▲手術
専用の針を2か所挿入して行う新しい手術です。傷跡は1cm弱とかなり小さいことがわかります。

▲手術後の CT 画像
椎体の空洞内に人工骨セメントが充填され、椎体が安定化しました。

医療安全だより ～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

第14回 「転倒防止」啓発の取り組みについて

医療安全管理部・看護

医療安全管理部は、医療の安全を担う部門です。本院には、医療安全管理に関する院内報告制度があり、小さな事故でも積極的に報告してもらうようにしています。それらの報告を集計・分析し、再発防止策の立案を行うなど現場職員と共に医療安全向上に努めています。

これらの活動の中から生まれた「転倒防止」に関する啓発の取り組みをご紹介させていただきます。

本院では、2008～2012年の5年間で転倒・転落事故が2,742件ありました。分析の結果、トイレや浴室への移動時に発生する確率が高いことがわかったため、移動時にナースコールを押して介助を求めてもらうことが転倒防止にとって重要であることがわかりました。そのため、患者さまに転倒の危険意識と遠慮せずにナースコールを押すという認識を持ってもらうことを目的にアニメーション動画を制作しました。入院時には是非、ベッドサイドのテレビでご視聴ください。

マーブルフェスタ2014

▲ 写真 ①

「患者さまに夏祭りの雰囲気を届けたい！」ボランティアと病院職員が力を合わせ実施する夏祭りマーブルフェスタも、今年で8回目を迎え、7月25日(金)に病院5階講堂、講堂前廊下にて、来場者数約130名と盛会の内に開催いたしました。

開式時に、日頃の活動の感謝を申しあげるために金塚幼稚園さまとボランティアスタッフのみなさまに感謝状の贈呈式を行いました。(写真①)その後、講堂では、手回しオルガン、マジックショー、民謡、楽器演奏、フラダンス、うた、体操(写真②)などの演目があり、一緒に歌ったり、手拍子したり、患者さまの楽しそうな姿が印象的でした。また、廊下ではバザー、ハンドマッサージ、カラーコーディネート、バルーンアート、ミニ千本引きなどで、夏祭りの雰囲気を演出しました。

市大バージョン「恋するフォーチュンクッキー」のダンスと動画上映は、病院長はじめ各部署の病院職員も多数出演し、患者さまにたいへん好評でした。

▲ 写真 ②

あべの天王寺・サマーキャンパス

4月にあべのハルカス21階に開設した先端予防医療部附属クリニック「MedCity21」では、8月23日(土)、24日(日)に行われた地域イベント「あべの天王寺・サマーキャンパス」の催しとしてメディカルキッズ®MedCity21と題し、プチ健診を中心とした親子イベントを開催しました。

MedCity21の医師が心臓や呼吸の音の聴診の仕方を教え、看護師や放射線技師が身体測定等の測定を行い、検査技師が超音波検査の実演を行いました。2日間で延べ300組の親子が参加されました。お父さんやお母さんと一緒に身体測定・視力検査や骨密度測定をして体の状態を調べました。お子様は車椅子に乗ってみたり医師や看護師の制服を着て心臓の音を聴診器で聴いたりしていました。

MedCity21では大学病院の専門性を生かした健診事業を実施し予防医療を実践します。また、診療部門としてレディスエリア(産婦人科・皮膚科)や特色のある専門外来を併設しています。

市民の皆様のお越しを教職員一同お待ちしております。

▲ まず聴診器の使い方を学びます

▲ 初めての聴診器

▲ 白衣を着てドクター＆ナースになりきり記念写真の撮影

▲ 模型なのに本当に心臓の音がするのでびっくり

みんなおおよろこび！

平成26年 8月 29日（金）

小児医療センターにユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)のエルモとクッキーモンスター達が遊びに来てくれました！子供たちは大喜び♪
みんなで歌って踊って、とても楽しいひと時を過ごしました。

シリーズ 診療科紹介

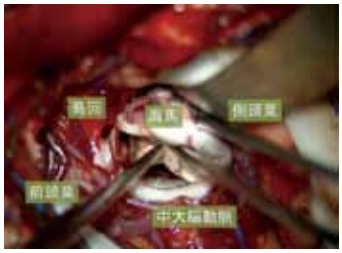
核医学科

核医学科は、医療用放射性同位元素を用い、生体内の様々な代謝を視覚的に診断する核医学検査、例えば、がんの診断に、ポジトロンペットや骨シンチなど、認知症や脳卒中などに脳血流スペクトなど、種々の検査を行なっています。また、がんを内照射するベータ線放出同位元素を用いての治療も行なっており、特にメタストロン（ストロンチウム−89）は、がんの骨転移に集まることで、骨転移の疼痛を緩和し、がんを患う患者様の生活の質を保つことに役立っています。心当たりがある患者様はまず、主治医にご相談してください。

てんかんの外科治療について

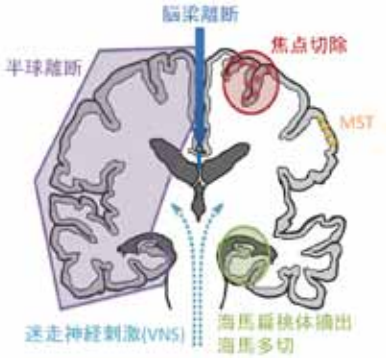
てんかんは、脳の神経細胞の異常興奮によってもたらされる反復性の発作を主症状とする脳疾患で、子供から高齢者までおよそ100人に1人が発症する身近な病気です。基本治療は抗てんかん薬の内服ですが、発作が治りにくい患者さんが約2割おられます。そのような難治なてんかんに外科治療が有効な場合があります。

外科治療を行うためには、MRI、脳波検査、脳磁図検査、核医学検査、神経心理検査などを行い、てんかんが脳のどの部分から起こっているのかを診断します。診断の結果、てんかん発生部位の外科的切除が可能な場合には、発作の完全消失を目指した切除手術を行います(図1)。



▲（図1）

また切除が難しい場合でも覚醒下手術という脳の機能を損なわない最新の手術法を行うことも可能です。焦点切除手術が不可能な場合には、てんかんの伝導路を遮断する手術(脳梁離断術など)や、てんかんの発生を緩和する手術(迷走神経刺激術)を行うことにより、大きな発作抑制効果が期待できます(図2)。



▲（図2）

当院には最新の各種検査機器が備わっており、全てのてんかん手術に対応しております。てんかん発作でお困りの方がおられましたら、脳神経外科外来までご相談ください。

当院の褥瘡（床ずれ）対策について

当院では、褥瘡対策に医師、看護師のほか、リハビリ、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、事務職と院内の職員でチーム医療を行い、褥瘡ゼロを目指して活動しています。入院される患者様は、手術をはじめ様々な治療で、ベッド上での生活を余儀なくされる場合があり、医師や看護師が中心となって褥瘡予防を行います。患者様の状況に適したマットやクッションを使用して安楽に努めると同時に、圧迫やずれを防止するケアを行います。予防しきれなかった褥瘡に対しては、毎週皮膚科専任医師と認定看護師が回診を行い、多職種が協力して早期治癒に努めています。褥瘡委員会では、毎月の褥瘡発生や褥瘡になりやすい誘因に対して具体的な対策を検討し、職員教育を行っています。少しでも充実した褥瘡対策を行うために日々努力しています。

▲ 褥瘡回診の様子

▼ 院内栄養サポートチームと褥瘡委員会との合同研修の様子

文責　皮膚・排泄ケア認定看護師　曽我・林

一過性脳虚血発作（いっかせいのうきょけつほっさ）

脳梗塞は脳の血管が詰まる病気ですが、本格的に発症する前に、一時的に血流低下をきたし神経症状を起こすことがあります。これを一過性脳虚血発作TIAといいます。「半身の麻痺、片側の口周囲の麻痺、ろれつが回らない、片目が真っ暗になる」がTIAを疑わせる典型的な症状です。突然発症し1時間ほどで消失することが多く、24時間以上続く場合には脳梗塞になっていることがほとんどのため、TIAを「24時間以内に症状が消失したの」と定義することもあります。

▲ 老年科・神経内科スタッフ一同

TIAの後2日以内に脳梗塞を起こす確率は5%ほどですが、60歳以上、高血圧・糖尿病が合併する場合は、10%以上になります。TIAを起こしたら、直ちに入院しなければなりません。血管の狭窄部位・程度（図）や不整脈を調べ、病態に適した予防薬を迅速に開始すれば脳卒中発症率が80%軽減することが知られています。

▲（図）

不明な点は老年科・神経内科（写真）にお問い合わせください。

老年科・神経内科　教授　伊藤義彰

発行／大阪市立大学医学部附属病院　http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/

所在地　〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号　初診受付時間　午前9時～午前10時30分
電　話　(06)6645－2121（代表）　休　診　日　土・日・祝日、12月29日～1月3日